授業科目	情報科学		:	担当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4年・通年		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態			:	授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ンができる。	ノーを遵守し、コン 夏の傾向をつかみ、			ワークを活用した	学習や、プ	レゼンテーショ		
到達目標		夏の苦手範囲を理解 対して対策を講じる							
テキスト・ 参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医 学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800								
	評価方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験	0							
評価方法・ 評価基準	レポート	0	提出物	7の内容を点数	!化し、総合計を1	00 点換算し	 、学則に則り評		
可順季平	小テスト 提出物	0	定する	5.					
	その他	100							
履修上の 留意事項	提出期限を施	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。							
履修主題・	回	履修主題			履修内	内容			
履修内容		疑試験の再回答、振 分析	り返 国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる						
	2 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	。 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジンフトの活用 手範囲の分析、そ				
	4 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	<u> </u>	疑試験の再回答、振 分析	り返		ジフトの活用 手範囲の分析、そ	れに対する	対策を講じる		
	6 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	/ /	疑試験の再回答、振 分析	り返		ジフトの活用 手範囲の分析、そ	わに対する	対策を護じる		
	。 模技	受試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
	o 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	10 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	4.4 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジャーの活用 ジンフトの活用 手範囲の分析、そ				
	12 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジンフトの活用 手範囲の分析、そ				
	13 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジンフトの活用 き手範囲の分析、そ				
	14 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	サリストの活用 サフトの活用 手範囲の分析、そ				
	45 模技	疑試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手手範囲の分析、そ				

授業科目	情報科学 A	担当 教員	竹中謙将		道内の病院で 10 年、老人保健施設で 7 年、理学療法士として勤
IXXIII	натил ј	実務 経験	有:	無:	務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	情報科学 B		į	坦当教員	竹中 謙将				
対象年次・学期	4年・通年		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態			į	受業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ンができる。	/ーを遵守し、コン 夏の傾向をつかみ、			ワークを活用した	学習や、プ	レゼンテーショ		
到達目標	国家試験問題	見の演習では正答率	を前期	は 70%、後期	月は 90%を目標と <sup>-</sup>	する。			
テキスト・ 参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800								
	評価方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験	0							
評価方法・ 評価基準	レポート	0	提出物	の内容を点数	:化し、総合計を 1	00 点換算し	     、学則に則り評		
	小テスト	0	定する	0					
	提出物	100							
 履修上の									
留意事項		はずるとこ。 過ずる場合は、事	前に連	絡をすること	0				
履修主題・		履修主題			履修 個	內容			
履修内容		試験の再回答、振 分析	り返 国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる						
		試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用				
	2 模擬	が 試験の再回答、振 分析	り返	模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる 国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる					
	/ /	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる					
	<sub>5</sub> 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	6 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	/	試験の再回答、振 分析	り返		ジフトの活用 手範囲の分析、そ	こかまる	対策を講じる		
	ο 模擬	ガ 試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	1 子範囲の分析、 6 5 ソフトの活用 5 手範囲の分析、 そ				
	ο 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	10 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジャーの活用 ジフトの活用 手範囲の分析、そ				
	11 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジンフトの活用 手範囲の分析、そ				
	12 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	サ				
	13 模擬	ガ	り返	国家試験対策	17 <u>年日のカ州、 (</u> 5ソフトの活用 5手範囲の分析、そ				
	14 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジャークラック (グライン) ジャップ (グライン) (				
	45 模擬	試験の再回答、振 分析	り返	国家試験対策	ジフトの活用 手範囲の分析、そ				

授業科目	情報科学 B	担当 教員	竹中謙将		道内の病院で 10 年、老人保健施設で 7 年、理学療法士として勤
	ISINITI D	実務 経験	有:	無:	務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	徒手関係	節治療等	ž A		担当教員	当教員 橋田 浩				
対象年次・学期	4年・前	前期		必任	修・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的		障害が何	可によるか系統的			び、骨運動と関節 モビライゼーショ				
到達目標	2.骨道 3.運動 きる。 4.関節 る。	動(生 か機能障 うおよび	理的運動)と関 害が、関節・筋 関節の動きを触	節運動 あるい	(副運動)の間 は神経の滑走隊	去) の意義についる 関係を理解し、評価 章害に基づくものが ーションの基本的記	西・治療技術 か、問題点を	に適用できる。 系統的に説明で		
テキスト・ 参考図書等		書:上朋				のマニュアルセラ	ピー 改訂領	第2版、脊椎の		
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	c ++n +	定期試験により評価する。					
可调坐十	サイス 提出物		0	正期記	1.映により評価	19 ව.				
		その他 0								
履修上の 留意事項	演習日	こは演習	習ができる服装で	多加了	すること。					
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	徒手履	景法の意義		理学療法における徒手療法の意義					
	2	歴史的	的背景		徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念					
	3	骨運動	かと副運動		骨運動と関節運動(副運動)および法則					
	4	用語の	)定義・解釈		徒手療法における専門用語の定義と解釈					
	5	関節も	- ビライゼーショ	ン	関節モビライ	イゼーションの治療	原理			
	6	効果、	適用・禁忌		関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌					
	7	上肢陽	即手技		上肢関節に対	対する基本的モビラ	イゼーショ	ン手技の実習		
	8	下肢陽	即手技		下肢関節に対	対する基本的モビラ	・イゼーショ	ン手技の実習		
	9	脊柱0	D運動学		頚椎・胸椎・	腰椎の関節運動学	<u>*</u>			
	10	仙腸陽	関節の動きと障害		仙腸関節の刑	/態、動きおよび障	害			
	11	==-	-ロダイナミック	ス	末梢神経の清	骨走障害の評価と治	 涂療法			
	12	腰椎・	体幹のスタビリ	ティ	腰椎・体幹の の応用	スタビリティの理	論的背景と	エクササイズへ		
	13	脊柱·	骨盤の触診		頚椎・胸椎・	腰椎関節および骨	盤について	触診の実習		
	14	脊椎隊	即手技		頚椎・胸椎関	関節に対するモビラ	イゼーショ	ン手技の実習		
	15	仙腸陽	即手技		仙腸関節の障	意害の評価と基本的	治療手技			

授業科目	徒手関節治療学 A	担当教員	橋田浩		道外の病院にて理学療法士とし
技兼代日	16年19日11日11日   15日   15	実務 経験	有:	無:	て 10 年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	徒手関領	節治療等	ŹB		担当教員	橋田 浩					
対象年次・学期	4年・前	前期		必任	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的		障害が何	可によるか系統的			び、骨運動と関節 モビライゼーショ					
到達目標	2.骨運 3.運動 きる。 4.関節 る。	動(生 か機能障 うおよび	理的運動)と関 害が、関節・筋 関節の動きを触	節運動 あるい	(副運動)の間は神経の滑走隊	去) の意義についる 関係を理解し、評価 章害に基づくものが -ションの基本的記	西・治療技術 か、問題点を	に適用できる。 系統的に説明で			
テキスト・ 参考図書等	法 参考図	参考図書:上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー 改訂第2版、脊椎の分節的安定性のための運動療法 第2版									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・ 評価基準	レポー		0		定期試験により評価する。						
計逥基华	小テス	<u> </u>	0	正期記	<b>式験により評価</b>	19 చ.					
	提出物	提出物 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0									
履修上の 留意事項		こは演習	習ができる服装で	多加克	けること。						
	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	徒手療	意法の意義		理学療法における徒手療法の意義						
	2	歴史的	的背景		徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念						
	3	骨運動	かと副運動		骨運動と関節運動(副運動)および法則						
	4	用語の	定義・解釈		徒手療法における専門用語の定義と解釈						
	5	関節も	ビライゼーショ	ン	関節モビライ	′ゼーションの治療	原理				
	6	効果、	適用・禁忌		関節モビライ	′ゼーションの効果	と適用・禁	忌			
	7	上肢隊	節手技		上肢関節に対	する基本的モビラ	イゼーショ	ン手技の実習			
	8	下肢隊	節手技		下肢関節に対	する基本的モビラ	イゼーショ	ン手技の実習			
	9	脊柱0	)運動学		頚椎・胸椎・	腰椎の関節運動学	5				
	10	仙腸隊	関節の動きと障害	ļ	仙腸関節の飛	態、動きおよび障	害				
	11	=ュ-	-ロダイナミック	'ス	末梢神経の清	<b>計走障害の評価と治</b>	<b>洽療法</b>				
	12	腰椎・	体幹のスタビリ	ティ	腰椎・体幹の の応用	)スタビリティの理	≌論的背景と	エクササイズへ			
	13	脊柱・	骨盤の触診		頚椎・胸椎・	腰椎関節および骨	盤について	触診の実習			
	14	脊椎陽	節手技		頚椎・胸椎関	節に対するモビラ	イゼーショ	ン手技の実習			
	15	仙腸	即手技		仙腸関節の障	意害の評価と基本的	治療手技				

授業科目	徒手関節治療学 B	担当教員	橋田浩		道外の病院にて理学療法士とし
<b>技業</b> 代日	1处于埃J即/口尔子 D	実務 経験	有:	無:	て 10 年以上勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療活	法演習	A		担当教員	元木 純	元木 純			
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	国家試験	験全員台	含格を目指すため	、各分	}野について学	習する。				
到達目標	獲得で	きる。				解を深め、第1回 、国家試験合格を		より高い点数を		
テキスト・ 参考図書等	学者図書等 必修ポイント専門基礎分野臨床医学									
	評価ス	評価方法 評価割合(%) 評価基準								
	試験		100			× 25% + (2回	<u></u> 目占数) <b>-</b> - 7	75% = 168 /		
評価方法・	レポー	-	0	280	点以上が合格	-	-			
評価基準	小テス	<b>-</b>	0		24 点以上、B: を実施する。	196 点以上、C:16	88 点以上、1	68 点未満は再		
	提出物		0	<u>0</u> 再試験は、 168 / 280 点以上が合格						
履修上の 留意事項	国家試験	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。								
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリコ	 [ンテーション		国家試験までの流れについて説明する。					
	2	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	3	解剖学	ž		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	4	解剖学	ž		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	5	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	6	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	7	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	8	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	9	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	10	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	11	生理学	Ź		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	12	生理学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	13	生理学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	14	生理学			過去問題を分	か析し、基礎項目を	・ 芸講義する。			
	15	生理学			過去問題を分	か析し、基礎項目を	・ 芸講義する。			
	16	生理学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	17	生理学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	18	運動学	<u> </u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	19	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	20	運動学	<u> </u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	21	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	22	運動学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	23	臨床图	医学総論		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			

24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
41	その他	模試など
42	その他	模試など
43	その他	模試など
44	その他	模試など
45	その他	模試など

授業科目	理学療法演習 A	担当 教員	塚田雅弘		市内整形外科クリニックで理学
1支未行日	连 <u>子惊</u> 么决自 A	実務 経験	有:	無:	療法士として 15 年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療活	法演習	В		担当教員	元木 純				
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	国家試験	験全員台	合格を目指すため	)、共通	<b>通分野について</b>	学習する。				
到達目標	獲得で	きる。				解を深め、第1回 、国家試験合格を		より高い点数を		
テキスト・ 参考図書等	学		專門基礎分野基礎 專門基礎分野臨床							
	評価ス	評価方法 評価割合(%) 評価基準								
	試験		100		(1同日占物)	× 25% + (2回	日占物)。	750% - 169 /		
評価方法・	レポー	7	0	280	点以上が合格	-				
評価基準	小テス	-	0		24 点以上、B: を実施する。	196 点以上、C:16	88 点以上、1	68 点未満は再		
	提出物			再試験は、 168 / 280 点以上が合格						
履修上の		その他 0   0   国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習し D識を定着させること。								
留意事項		と有さし	-			<b>尼</b> 俊	中容			
履修主題・ 履修内容	<u></u> 1	オリコ	履修主題  ⊑ンテーション		履修内容 国家試験までの流れについて説明する。					
	2	解剖学			過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	3	解剖学				がいて、主張では、 か析し、基礎項目で				
	4	解剖学			過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	5	解剖学			過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	6	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	7	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	8	解剖学	<u> </u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	9	解剖学	 学		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	10	解剖学	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	11	生理学	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	12	生理学	<u> </u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	13	生理学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	14	生理学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目で	を講義する。			
	15	生理学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目で	を講義する。			
	16	生理学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目で	を講義する。			
	17	生理学	<u> </u>		過去問題を分	かがし、基礎項目で	を講義する。			
	18	運動学	<del></del>		過去問題を分	かがし、基礎項目で	を講義する。			
	19	運動学	Ž		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	20	運動学	<del></del>		過去問題を分	かがし、基礎項目で	を講義する。			
	21	運動学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目で	を講義する。			
	22	運動学	<u> </u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	23	臨床图	医学総論		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。			

24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
41	その他	模試など
42	その他	模試など
43	その他	模試など
44	その他	模試など
45	その他	模試など

授業科目	理学療法演習 B	担当 教員	塚田雅弘		市内整形外科クリニックで理学
<b>技兼</b> 代日	连子原広决自 D	実務 経験	有:	無:	療法士として 15 年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療活	法演習	A		担当教員	元木 純			
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間	
授業目的	国家試験	験全員台	合格を目指すため	,專門	分野について	学習する。			
到達目標	   模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。 								
テキスト・ 参考図書等			試験共通問題 頻 身門基礎分野基礎		-ワード 1800				
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		0		ᄪᄧᇰᆠᄼᅩᆢᆞ	12 to /= -			
許伽基华	提出物	<u> </u>	100	演習語	<b>果題の内容によ</b>	り評価する。			
	た山初		0						
履修上の 留意事項	国家試験		,	らであり	)、基礎ともな	る内容であるため	)、繰り返し	何度も復習して	
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	基礎理	里学療法		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	2	基礎理	里学療法		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。		
	3	基礎理	里学療法		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。		
	4	基礎理	里学療法		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。		
	5	評価法	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。		
	6	評価法	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	7	評価法	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	8	評価法	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。		
	9	運動療	<b>奈法</b>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	10	運動療	療法		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	11	物理療	療法		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	12	物理療	療法		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	13	義肢變	長学		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	14	義肢剝	長具学		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。		
	15	ADL			過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。		
	16	ADL			過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	17	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。		
	18	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	19	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	20	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	21	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	22	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。		
	23	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	が析し、基礎項目を	 を講義する。		

24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	その他	模試など
34	その他	模試など
35	その他	模試など
36	その他	模試など
37	その他	模試など
38	その他	模試など
39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習 A	担当教員	塚田雅弘		市内の整形外科クリニックにて
5文未行日	连子原/広/ <b>典自</b> A	実務 経験	有:	無:	理学療法士として 15 年勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療活	法演習	В		担当教員	元木 純				
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	国家試験	験全員台	合格を目指すため	ため、専門分野について学習する。						
到達目標	   模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。 									
テキスト・ 参考図書等			試験共通問題 頻 専門基礎分野基礎		-ワード 1800					
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	사람 경기 수	ᄪᄧᇰᆠᄼᅩᆢᆞ	12 to /#				
計	提出物		100	演習記	<b>果題の内容によ</b>	リ評価する。				
	提出物 その他		100							
履修上の 留意事項	国家試験		,	であり	)、基礎ともな	る内容であるため	)、繰り返し(	何度も復習して		
履修主題・	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	基礎理	里学療法		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	2	基礎理	里学療法		過去問題を分	↑析し、基礎項目で	を講義する。			
	3	基礎理	里学療法		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	4	基礎理	里学療法		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	5	評価法	<u></u>		過去問題を分	か析し、基礎項目を				
	6	評価法	<u></u>		過去問題を分	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。				
	7	評価法	<u></u>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	8	評価法	<u></u>		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	9	運動療	<b>奈法</b>		過去問題を分析し、基礎項目を講義する。					
	10	運動療	療法		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。			
	11	物理療	療法		過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。			
	12	物理療	療法		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	13	義肢變	長学		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。			
	14	義肢剝	長具学		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	15	ADL			過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。			
	16	ADL			過去問題を分	かがし、基礎項目を	を講義する。			
	17	各領域	域の評価・治療	療 過去問題を分析し、基礎項目を講義する。						
	18	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	19	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	20	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	か析し、基礎項目を	を講義する。			
	21	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目で	を講義する。			
	22	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	かがし、基礎項目で	を講義する。			
	23	各領域	域の評価・治療		過去問題を分	が析し、基礎項目を	を講義する。	,		

24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
33	その他	模試など
34	その他	模試など
35	その他	模試など
36	その他	模試など
37	その他	模試など
38	その他	模試など
39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習 B	担当教員	塚田雅弘		市内の整形外科クリニックにて
<b>技業代日</b>	理子惊/広/典自 □ D	実務 経験	有:	無:	理学療法士として 15 年勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法課題研究 A				担当教員	横野 裕行				
対象年次・学期	3年・通	9年		必但	 多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	する。					ことを基に、実践し、研究計画を立				
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作り   きる。   ・計画書に基づいて予備研究を行い、方法を見直してデータ収集ができる。									
テキスト・ 参考図書等	特に指定									
	評価方	法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポート		0	提出集	勿(授業課題	研究計画書 ) 取	り組み姿勢だ	とどから総合的		
評価基準	小テスト	,	0		質する。		7 MAO/ 女 分 16			
	提出物		60 40							
履修上の 留意事項	2 37 18	員との軸		を密に	こ行い、主体的	に取り組んでくだ	さい。			
	回		履修主題			履修四	 内容			
履修大容	1	オリコ 検索	ニンテーション、	文献	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。					
	2	文献抄	少読		グループ演習					
	3	研究計	十画書の作成 1		先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う					
	4	研究計	†画書の作成 2		先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う					
	5	研究計	十画書の作成 3		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う					
	6		十画書の作成 4		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う					
	7	研究計	十画書の作成 5		担当教員の指 	<b>貨・助言を交え</b> 計	画書の作成	を行う		
	8		画書の作成 6			<b>i導・助言を交え</b> 記				
	9	研究計	十画書の作成 7			<b>導・助言を交え</b> 記				
	10	予備研	开究 1		をする	基づき予備研究を	, , , , , , , ,			
	11	予備研	开究 2		をする	基づき予備研究を				
	12	予備研			をする	基づき予備研究を				
	13	予備研 			研究計画書に をする	ニ基づき予備研究を	E行い、方法 	の修正・見直し		
	14	テーク	7収集 1		計画書に基つ	<b>ゔきデータ収集を</b> 行	īう			
	15	データ	7収集 2		計画書に基づきデータ収集を行う					

授業科目	理学療法課題研究 A	担当 教員	塚田雅弘		札幌市内の整形外科クリニック
以来では	**************************************	実務 経験	有:	無:	にて 15 年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法課題码	研究 B		担当教員	横野 裕行				
対象年次・学期	3 年・ji	通年		必何	修・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 🛽	時間数	30 時間		
授業目的	する。	・1~3年次に理学療法研究法 ~ で学習してきたことを基に、実践を通して研究の流れを理解する。 ・卒業研究として具体的に興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てて実施する。								
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成で きる。 ・予備研究を行い方法を見直してデータ収集ができる。									
テキスト・ 参考図書等	特に指導	定はした	III							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー		0	提出集	勿(授業課題	研究計画書 ) 取(	1組み姿勢た	たどから総合的		
評価基準	小テス	٢	0		提出物(授業課題、研究計画書 ) 取り組み姿勢などから総合的 に評価する。					
	提出物		60 40							
 履修上の		昌 トのも		た宓に	- (元) 十体的	 に取り組んでくだ	<del>+</del> 11			
留意事項	担当教	貝Cのキ	収古・理給・伯談	を登し	_1](1、土冲的	に取り組んでくだ	C 1 10			
履修主題・			履修主題			<b>履修</b> P				
履修内容	1	オリコ 検索	<b>ロンテーション、</b>	文献	卒業研究の流	れについて。文南	<b>状検索の方法</b>	の確認、実施。		
	2	文献抄	少読		グループ演習	1				
	3	研究記	十画書の作成 1		先行研究を基 て計画書の作	にリサーチ・クコ 可を行う	スチョン、	目的を明確にし		
·	4	研究記	十画書の作成 2			にリサーチ・クコ	スチョン、	目的を明確にし		
	5	研究記	十画書の作成 3		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う					
	6	研究記	十画書の作成 4		担当教員の指	(導・助言を交え記	画書の作成	を行う		
	7	研究語	十画書の作成 5		担当教員の指	<b>導・助言を交え</b> 計	画書の作成	を行う		
	8	研究記	十画書の作成 6		担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う					
	9	研究記	十画書の作成 7		担当教員の指	導・助言を交え計	画書の作成	<u></u> を行う		
	I	マルサア	予備研究 1		研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直し をする					
	10				をする					
	10 11	予備研	开究 2		をする 研究計画書に をする	基づき予備研究を	行い、方法	の修正・見直し		
		予備研	开究 2 开究 3		をする 研究計画書に をする 研究計画書に をする	基づき予備研究を基づき予備研究を	行い、方法	の修正・見直し		
	11	予備研予備研	开究 2 开究 3 开究 4		をする 研究計画書に をする 研究計画書に をする	基づき予備研究を	行い、方法	の修正・見直し		
	11	予備研予備研	开究 2 开究 3		をする 研究計画書に をする 研究計画書に をする 研究計画書に をする	基づき予備研究を基づき予備研究を	行い、方法 行い、方法 行い、方法	の修正・見直し		

					,
授業科目	理学療法課題研究 B	担当 教員	塚田雅弘		札幌市内の整形外科クリニック
IXXIII	- I MADINE WITH	実務 経験	有:	無:	にて 15 年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法課題研	开究 A		担当教員	元木 純				
対象年次・学期	4 年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	・卒業	研究とし		テーマ	?に基づき収集	研究手法について したデータをまと		プレゼンテーシ		
到達目標	・論文	規定に消		を参照	引しながら自ら	析できる。 の考察を交えて論 テーションを行う				
テキスト・ 参考図書等	特に指定はしない									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー		40	取り糸	日み姿勢と、ブ	゚レゼンテーション	/資料・発表	・論文の内容を		
評価基準	担出物	<u> </u>	20		えて総合的に評		22			
	たの他		40							
履修上の 留意事項	卒業研			<u> </u> した研究テーマについて調べまとめるという集大成の場となりま ・相談を密に行い、計画的、主体的に取り組んでください。						
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1		エンテーション、 ff、発表準備	デー	オリエンテーション。収集したデータの解析、論文・プレゼン資料の作成を行う					
	2	論文作	F成のポイント、 f、発表準備	デー	論文規定に沿った書式の作成方法について理解する 収集したデータの解析、論文、プレゼン資料の作成を行う					
	3	スライ 発表 <sup>準</sup>	ーーーー ſ ド作成のポイン 賃備	۲,	見やすい発表用スライドの作成方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う					
	4	口述到準備	<b>Ě表のポイント、</b>	発表	わかりやすい発表に向けてプレゼンテーションの方法につ いて理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う					
	5	発表準	<b>善</b> 構		論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う					
	6	発表準	≛備		論文、プレセ	ジン資料を作成し、	発表準備を	行う		
	7	発表準	<b>基備</b>		論文、プレセ	ジン資料を作成し、	発表準備を	行う		
	8	予演会	<u></u>		う	-サルを行い、スラ				
	9	卒業研	开究発表		る	注果を発表し、質疑 発表を聴講すること				
	10	卒業研	开究発表		自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る					
	11	卒業研	开究発表		自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る					
	12	卒業研	开究発表		自らの研究が る	<b>は果を発表し、質</b> 疑	<b>憂応答に対応</b>	す		

		他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
13	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する る 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
14	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する る 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
15	まとめ	発表時の質疑応答を基に振り返り、論文、プレゼン資料の 修正を行う

授業科目	理学療法課題研究 A	担当教員	塚田雅弘		札幌市内の整形外科クリニック
	-13 337433742375	実務 経験	有:	無:	にて 15 年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		紅洲			

授業科目	理学療法	法課題码	开究 B		担当教員	元木 純			
対象年次・学期	4年・前	前期		必但		必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	・卒業	研究とし	頭研究 から継続 して自ら設定した ばし、わかりやす	テーマ	7に基づき収集			プレゼンテーシ	
到達目標	・論文	規定に対	- 夕を適切な統計 凸って、先行研究 勺確にまとめ、わ	を参照	買しながら自ら	の考察を交えて記			
テキスト・ 参考図書等	特に指定はしない								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準	Į.		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		40			゚レゼンテーショ	ン資料・発表	・論文の内容を	
	<del>パッスト                                     </del>				えて総合的に評	値する			
	その他		40						
履修上の 留意事項		<ul><li>業研究の発表は、自ら設定した研究テーマについて調べまとめるという集大成の場となりまった。</li><li>担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、計画的、主体的に取り組んでください。</li></ul>							
	回		履修主題			履修	内容		
履修主題・ 履修内容	1		Eンテーション、 fr、発表準備	デー	オリエンテーション。収集したデータの解析、論文・プレ ゼン資料の作成を行う				
	2		F成のポイント、 f、発表準備	デー	論文規定に沿った書式の作成方法について理解する る 収集したデータの解析、論文、プレゼン資料の作成を行う				
	3	スラク発表達	イド作成のポイン 津備	۲,	見やすい発表用スライドの作成方法について理解する る 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う				
	4	口述多	<b>そ表のポイント、</b>	発表	わかりやすい発表に向けてプレゼンテーションの方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う				
	5	発表	<b>書備</b>		論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う				
	6	発表準	<b>丰備</b>		論文、プレセ	ジン資料を作成し	、発表準備を	行う	
	7	発表準	<b>書備</b>		論文、プレセ	ジン資料を作成し	、発表準備を	行う	
	8	予演会	<u></u>		発表のリハ- う	-サルを行い、ス	ライドや発表	方法の修正を行	
	9	卒業研	开究発表		自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る				
	10	卒業研究発表			自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る				
	11	卒業研	开究発表		自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る				

12	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する る 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
13	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する る 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
14	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する る 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
15	まとめ	発表時の質疑応答を基に振り返り、論文、プレゼン資料の 修正を行う

					<u> </u>
授業科目	理学療法課題研究 B	担当教員	塚田雅弘		札幌市内の整形外科クリニック
IXXIII	71 MADINEWING	実務 経験	有:	無:	にて 15 年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実	臨床実習 A			担当教員	元木 純				
対象年次・学期	4年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	180 回	時間数	360 時間		
授業目的	もに、I 理学療 1)理 化 2)リ	3年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。 1)理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。 2)リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践する。								
到達目標	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。									
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第6版									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	7	0		マ羽杉道孝の河ウ マ羽却生人のひまれの 相山物なれば					
評価基準	小テス	+	0		床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併 、総合的に評価する。 					
	提出物		25	_ \						
	その他		75							
履修上の 留意事項	学生と にして		後の実習となりま	す。惟	事いが残らない	よう対象者第一に	考え行動し、	充実した実習		
	0		履修主題			履修 個	内容			
履修主題・ 履修内容	1		-10 回】 《習前評価		実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当た リ、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを 確認する。					
	2		11-165 回】 編床実習		までの一連の 1)理学療法の 行うことによ る。 2)リハビリテ それに即した	施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療 一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。 療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に とにより、対象者の反応や変化を具体的に把握す ビリテーションチームの一員としての役割を担い、 即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。				
	3		66-180 回】 《習後評価			『習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。				

授業科目	臨床実習 A	担当 教員	有本	邦洋	道外医療施設にて理学療法士と
1文朱1十口	咖// 人目 / 九	実務 経験	有:	無:	して6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実	臨床実習 B			担当教員	自教員 元木 純 				
対象年次・学期	4年・前	前期		必值	冬・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	180 回	時間数	360 時間		
授業目的	もに、 <sup>3</sup> 理学療 録・再 ション	3年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。1)理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。、2)リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、決議に関したで表								
到達目標	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。									
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第6版 臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	۲	0	π <b>=</b> c÷ c	力羽状送せる知		. ** + ch			
評価基準	小テス	7	0		:実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併 総合的に評価する。 					
	提出物		25							
	その他		75							
履修上の 留意事項	学生として		後の実習となりま	す。惟	いが残らない	よう対象者第一に	考え行動し、	充実した実習		
	0		履修主題			履修[	内容			
履修主題・ 履修内容	1		-10 回】 《習前評価			習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当た 、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを 認する。				
	2		1-165 回】 脉末実習		までの一連の理学療法の実うことによりる。、2)リグ担い、それにぶ。	設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療・連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1) その実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行より、対象者の反応や変化を具体的に把握す リハビリテーションチームの一員としての役割を・れに即した行動を実践して運営・管理について学				
	3		66-180 回】 《習後評価		実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知 識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認 する。					

授業科目	臨床実習 B	担当 教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1XX17 L		実務経験	有:	無:	して 6 年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急救行	命学 A			担当教員	横野 裕行						
対象年次・学期	4年・前	前期		必值	冬・選択区分	必修	単位数					
授業形態					授業回数	8 🛽	時間数	15 時間				
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技 も併せて経験する。											
到達目標	救急法について理解する。											
テキスト・ 参考図書等	配布資料											
	評価ス	方法	評価割合(%)		評価基準							
	試験		100									
評価方法・	レポー	۲	0									
評価基準	小テス	<b></b>	0	定期詞	試験により評価	iする。						
	提出物		0									
	その他		0									
履修上の 留意事項			₹然必要になりま けてください。	す。い	づという場面	で必要になる知識	と技術である	ることを念頭				
履修主題・			履修主題		履修内容							
履修内容	1	救急法			医師法と一般	と 応急手当と基礎知	口識					
	2	救急法	<b>去概論</b>		ビデオ、スライド使用							
	3	各パ-	- トについて		出血、止血法、傷への対応							
	4	各パ-	- トについて		三角巾の扱い	<b>\</b> 方						
	5	各パ-	- トについて		凍傷、火傷、	咬傷、気道の確例	₹					
	6	各パ-	- トについて		頭のケガ、関	電、電撃						
	7	各パ-	- トについて		蘇生法(人工呼吸)							
	8	各パ-	- トについて		蘇生法(心マ	<b>?</b> ッサージ)		蘇生法(心マッサージ)				

授業科目	救急救命学 A	担当 教員	菩提寺浩		消防署にて救急救命士として4
1XX17 LI	T THAT WILL	実務経験	有:	無:	0 年以上従事
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急救命	命学 B			担当教員	横野 裕行			
対象年次・学期	4年・前	前期		必修	逐・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8 🛽	時間数	15 時間	
授業目的	臨床場ī も併せ <sup>-</sup>			として	、救急法につ	いて知識・理解を	深めると共口	こ、基本的手技	
到達目標	救急法	こついて	て理解する。						
テキスト・ 参考図書等	配布資料	料							
	評価方法 評価割合(%)				評価基準				
	試験		100						
評価方法・	レポー	٢	0						
評価基準	小テス	٢	0	定期記	定期試験により評価する。				
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項			突然必要になりま けてください。	き。い	ざという場面	で必要になる知識	と技術である	ることを念頭	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	救急法	去概論		医師法と一般応急手当と基礎知識				
	2	救急法	去概論		ビデオ、スライド使用				
	3	各パ-	- トについて		出血、止血法、傷への対応				
	4	各パ-	- トについて		三角巾の扱い	方			
	5	各パ-	- トについて		凍傷、火傷、咬傷、気道の確保				
	6	各パ-	- トについて		頭のケガ、関電、電撃				
	7	各パ-	- トについて		蘇生法(人工呼吸)				
	8	各パ-	- トについて		蘇生法(心マッサージ)				

授業科目	救急救命学 B	担当 教員	菩提寺浩		消防署にて救急救命士として4
1XX17 L	ם די אואלימועני	実務経験	有:	無:	0 年以上従事
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	健康増設	<b>進科学</b> /	A	担当教員	武田 祐貴				
対象年次・学期	4 年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	8 🛛	時間数	15 時間		
授業目的			要な運動・身体活 びき学ぶ。	動を含む様々な生活	習慣が健康にどの	ような影響を	を及ぼすかを科		
到達目標	適切な	運動・党	栄養・休養を日常	生活に効果的または	安全に取り入れる	方法についる	て理解する。		
テキスト・ 参考図書等									
	評価方法 評価割合(%)			評価基準					
	試験		0						
評価方法・	レポー	٢	0		-/= > .b = = 1	10 to / T - 1 = 2			
評価基準	小テス	۲	100	毎回の授業終了時に合計点が6割以上の					
	提出物		0	H11////2 0 H13// 110					
	その他		0						
履修上の 留意事項				あり、理学療法士・ の視点と予防的取り			く必要がある。		
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修工題	1	予防! 説	リハビリテーショ	ン概					
	2		リハビリテーショ ≾実際	ンの					
	3	近年は	こおける予防の動	向					
	4	介護	予防事業						
	5	認知症	<sup></sup>	の予					
	6	リテ-	学からみた予防リ −ション						
	7	リテ-	学からみた予防リ −ション						
	8		≦療、災害リハビ ョンの概要	リテ					

授業科目	健康増進科学 A	担当 教員	田口裕紀	子	札幌医科大学保健医療学部看護
1XX17 L	医冰省座竹子 八	実務 経験	有:	無:	学科にて勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	健康増設	進科学	В	担当教員	武田 祐貴				
対象年次・学期	4 年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	8 🛛	時間数	15 時間		
授業目的			要な運動・身体活 びき学ぶ。	動を含む様々な生活	習慣が健康にどの	ような影響を	を及ぼすかを科		
到達目標	適切な道	運動・党	栄養・休養を日常	生活に効果的または	安全に取り入れる	方法についる	て理解する。		
テキスト・ 参考図書等									
	評価方法 評価割合(%)			評価基準					
	試験		0						
評価方法・	レポー	٢	0		-/= > .l. <del>-</del> 1.	A + T / T - T - T			
評価基準	小テス	۲	100	毎回の授業終了時に合計点が6割以上の					
	提出物		0	H 11/1/1/2 0 11/1/12 0		. 0			
	その他		0						
履修上の 留意事項				あり、理学療法士・ の視点と予防的取り			く必要がある。		
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修工題	1	予防! 説	リハビリテーショ	ン概					
	2		リハビリテーショ ≾実際	ンの					
	3	近年は	こおける予防の動	向					
	4	介護	予防事業						
	5	認知症	<sup></sup>	の予					
	6	リテ-	学からみた予防リ −ション						
	7	リテ-	学からみた予防リ −ション						
	8		≦療、災害リハビ ョンの概要	リテ					

授業科目	健康増進科学 B	担当 教員	田口裕紀	子	札幌医科大学保健医療学部看護
1文米11口	(C)	実務 経験	有:	無:	学科にて勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			

<b>运来约</b> 日	田公侯	+441	<b>-</b> Λ		<b>七</b>	海岭 笠			
授業科目 	理学療法	太官理	<del></del>		担当教員	福嶋 篤			
対象年次・学期	4年・道	<b>通年</b>		必值	後・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	管理の引	理解と明	里学療法士の職場:	運営に	こついて学ぶ。				
到達目標	管理、	管理的消	舌動について理解	し、理	学療法業務に	おける管理に	ついて説明でき	<b>ప</b> .	
テキスト・参考図書等	参考図	書 15	レクチャーシリー	·ズ 理	学療法テキス	ト 理学療法	管理学(中山書)	吉)	
	評価方法 評価割合(%)					評価	基準		
	試験		100						
評価方法・	レポー		0						
評価基準					試験により評価	ける。			
	提出物		0						
 履修上の		5			、活田する知識	<u>・</u> 技術につい		どのように宝	
留意事項	理学療法士として職場に勤務してから活用する知識・技術について学習するので、どのように 践するかを意識して受講してほしい。								
履修主題・			履修主題			R	<b>夏修内容</b>		
履修内容	1	管理0	D意義と目的		オリエンテーション、管理の意義と目的について学習する				
	2		療法の法的根拠、 ッショナリズム	プロ	各種法的根拠について学ぶとともに、倫理要綱、ジュネープ宣言、患者の自己決定権、インフォームドコンセント及び守秘義務について学習する。				
	3	理学療	§法における情報®	管理	理学療法における指示の意味と適切な診療記録、書類管理 について学ぶとともに個人情報保護法や情報セキュリティーの基本について学習する。				
	4	組織管	管理と職業倫理		組織構成と医療関連倫理について学ぶ。				
	5	業務管	管理・職場管理と 法	多職	理学療法士の業務・職場管理と組織内外の関連職種との連携について学習する。				
	6		- 去と診療報酬		職場管理の観点から医療保険制度と診療報酬について学ぶ。				
	7	医療多	安全管理(1)		医療の現場におけるリスク管理と安全管理(機器の保守点検:機器の配置含む)				
	8	介護係	保険法と介護報酬		職場管理の観点から介護保険制度と介護報酬について学ぶ				
	9	医療領	安全管理(2)		7, 12, 15		7管理と安全管理		
	10	医療多	安全管理(3)			:ラーに関連す :的取組につい	る要因と予防策 \て学習する	について学び、	
	11	   管理に活かすコミュニケ   ション(1)			行動変容アフ			について学習す	
	12	管理は	<u>/(1)</u> ニ活かすコミュニ <sup>/</sup> /(2)	ケー	る。   対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーチ   ングについて学習する。				
	13	管理は	・ <u>(2)</u> に活かすコミュニ・ ノ(3)	ケー		引滑な関係性構	<b>5</b> 築に役立つヘル	スコミュニケー	
	14		養務と自己研鑽		社会人・専門		己研鑚について  ど)	学習します。	
	15	ハラス	スメント				対処法について	学びます。	

授業科目	理学療法管理学 A	担当 教員	渡邊	康介	理学療法士として市内病院に勤
1支条作口	连子怎么旨连子 8	実務 経験	有:	無:	務。
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	去管理等	Ž B		担当教員	福嶋 篤			
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	管理のヨ	理解と現	里学療法士の職場	運営に	こついて学ぶ。				
到達目標	管理、	管理的流	舌動について理解	ぱし、理	学療法業務に	おける管理にご	ついて説明でき	<b>ప</b> .	
テキスト・ 参考図書等	参考図	書 15	レクチャーシリ-	-ズ 理	学療法テキス	卜 理学療法管	<b>管理学(中山書</b> 原	<b>占</b> )	
	評価方法 評価割合(%)					評価基	基準		
	試験		100						
評価方法・	レポー		0		*******************************				
評価基準				定期記	<b>試験により評価</b>	1する。			
	提出物		0						
履修上の 留意事項					5活用する知識・技術について学習するので、どのように実				
履修主題・	回		履修主題			履	修内容		
履修内容	1	管理(	D意義と目的		オリエンテ- る。	-ション・管理	の意義と目的に	ついて学習す	
	2		療法の法的根拠、 ッショナリズム	プロ	各種法的根拠について学ぶとともに、倫理要綱、ジュネープ宣言、患者の自己決定権、インフォームドコンセント及び守秘義務について学習する。				
	3	理学療	<b>寮法における情報</b>	管理	理学療法における指示の意味と適切な診療記録、書類管理 について学ぶとともに個人情報保護法や情報セキュリティ ーの基本について学習する。				
	4		管理と職業倫理		組織構成と医療関連倫理について学ぶ。				
	5	業務管   種連挑	管理・職場管理と 表	多職	理学療法士の業務・職場管理と組織内外の関連職種との連 携について学習する。				
	6	医療法	法と診療報酬		職場管理の観点から医療保険制度と診療報酬について学 ぶ。				
	7	医療領	安全管理(1)		医療の現場におけるリスク管理と安全管理(機器の保守点検・機器の配置含む)				
	8	介護係	保険法と介護報酬		職場管理の観点から介護保険制度と介護報酬について学ぶ				
	9	医療罗	安全管理(2)		介護の現場に	こおけるリスク	管理と安全管理		
	10	医療罗	安全管理(3)			ラーに関連す 的取組につい	る要因と予防策 て学習する。	について学び、	
	11		こ活かすコミュニ ノ(1)	ケー	行動変容アフ る。	プローチに関す	る概念、実践例	について学習す	
	12	管理は	に活かすコミュニ ノ(2)	ケー	対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーラングについて学習する。				
	13	ション	こ活かすコミュニ ノ(3)	ケー	ションについ	て学ぶ。		スコミュニケー	
	14		養務と自己研鑽		(キャリアラ	ダーの作成な			
	15	ハラス	スメント		種々のハラス	(メントやその	対処法について	学びます。	

		担当			
授業科目	理学療法管理学 B	教員	福嶋篤		理学療法士として市内病院、訪問 看護ステーションに勤務。
		実務 経験	有:	無:	1日時人ナーションに勤伤。
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	去特論,	A		担当教員	元木 純			
対象年次・学期	4年・近	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的	理学療活	去の臨尿	末現場で用いられ	ている	お治療法や最近	のトピックスな	などを学ぶ。		
到達目標	理学療活	法の臨尿	末現場で用いられ	ている	ら治療法を理解	できる。			
テキスト・ 参考図書等	配布資料	料							
	評価方法 評価割合(%)					評価基	基準		
	試験		0						
評価方法・	レポー		0			_			
評価基準	小テス	۲	0	提出物	<b>勿により評価す</b>	·る。			
	提出物		100						
		しやすい	<u>                                     </u>						
留意事項					履修内容				
履修主題・ 履修内容	1	テート			テーピングの概念について学習する。				
	2		ニング		足関節・膝関	節へのテーピ		する。、肉離れ	
	3				足関節・膝関		ング方法を学習	する。、肉離れ	
	4	テート	ピング実習		の処置について学習する。 足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ				
	5		  ピング実習		の処置について学習する。 足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ				
	6		ピング実習		の処置について学習する。 足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ				
	7	レット	 ドコードの概念		の処置について学習する。   レッドコードの理論について学習する。				
	8		<u>ーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</u>		レッドコードの方法について学習する。				
	9	レット	ドコードの実習		レッドコードの方法について学習する。				
	10	レット	<u></u> ・コードの実習		レッドコードの方法について学習する。				
	11	PNF	総論・基本手技	ŧ	PNFの理論 実習する。	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を			
	12	PNF	総論・基本手技	ŧ		と促通のパタ	ーンを理解し、	基本的な手技を	
	13	ボバ-	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	と促通の基本	的な手技を実習	する。	
	14	ボバ-	- スの概念・基本手技		ボバース概念	と促通の基本	的な手技を実習	する。	
	15	ボバ-	ースの概念・基本手技		ボバース概念	既念と促通の基本的な手技を実習する。			
	16	ボバ-	ースの概念・基本手技		ボバース概念	と促通の基本	的な手技を実習	する。	
	17	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	を理解し、基	本的な手技を実	習する。	
	18	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	を理解し、基	本的な手技を実	:習する。	
	19	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	を理解し、基	本的な手技を実	習する。	
	20	ウィン	メンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手技を学ぶ。				
	21	ウィン	メンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	- 技を学ぶ。			

22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 A	担当 教員	塚田雅弘		市内整形外科病院にて理学療法
1又未行口	连子原从行明 八	実務 経験	有:	無:	士として 21 年間勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法特論 B			担当教員	元木 純					
対象年次・学期	4年・道	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的	理学療法の臨床現場で用いられている治療法や最近のトピックスなどを学ぶ。									
到達目標	理学療剂	理学療法の臨床現場で用いられている治療法を体験する。								
テキスト・ 参考図書等	配布資料									
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準	<b>₽</b>			
	試験		0							
評価方法・	レポー		0							
評価基準	小テス		0	提出物	<b>勿により評価す</b>	·る。				
	提出物		100							
履修上の 留意事項	実技のしやすい服装で臨むこと。									
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	テーと	ニーニーニー ピングの概念		テーピングの概念について学習する。					
	2	テーと	ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。					
	3	テーと	ピング実習		足関節・膝関	節へのテーピン \て学習する。	グ方法を学習	する。、肉離れ		
	4	テーヒ	ピング実習			節へのテーピン \て学習する。	グ方法を学習	する。、肉離れ		
	5	テーと	ピング実習		足関節・膝関	節へのテーピン Nて学習する。	グ方法を学習	する。、肉離れ		
	6	テーと	ピング実習		足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れ の処置について学習する。					
	7	レット	ドコードの概念		レッドコードの理論について学習する。					
	8	レット	ドコードの実習		レッドコードの方法について学習する。					
	9	レット	ドコードの実習		レッドコート	での方法について	学習する。			
	10	レット	ドコードの実習		レッドコート	での方法について	学習する。			
	11	PNF	総論・基本手技	ξ	実習する。	aと促通のパター				
	12	PNF	総論・基本手技	ξ	PNFの理論 実習する。	aと促通のパター	ンを理解し、	基本的な手技を		
	13	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。					
	14	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	なと促通の基本的	な手技を実習	する。		
	15	ボバ-	-スの概念・基本	手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。					
	16	ボバー	-スの概念・基本	手技	ボバース概念	と促通の基本的	な手技を実習	する。		
	17	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基本	的な手技を実	習する。		
	18	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基本	的な手技を実	習する。		
	19	リンノ	パマッサージ		リンパの流れ	1を理解し、基本	的な手技を実	習する。		
	20	ウィン	メンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	=技を学ぶ。				
	21	ウィン	メンズ・メンズへ	ルス	概要と基本手	≒技を学ぶ。				

22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 B	担当 教員	塚田雅弘		市内整形外科病院で理学療法士
1又来11口	生于凉风竹岬 0	実務 経験	有:	無:	として21年間勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床実習 A		担当教員		元木 純									
対象年次・学期	4 年・復	<b></b> 後期		必修・選択区分	•	必修	単位数							
授業形態			時間数	45 時間										
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での 生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。													
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。													
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き 第 5 版													
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準								
	試験		0											
評価方法・	レポー	١-	0											
評価基準	小テス	١-	0	世、総合的に評価			光衣内谷、:	佐山初寺を併						
	提出物		25	,										
	その他		75											
履修上の 留意事項	総合臨床実習を終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。													
	回		履修主題	履修内容										
履修主題・ 履修内容	1		1-45 回】 編床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション 設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・ 療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または 問リハビリテーション場面における見学、体験を通して 理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステム 強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを 握し、理学療法の役割を確認する。										

授業科目	臨床実習 A	担当 教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1又未代口	咖// 关目	実務 経験	有:	無:	して 6 年勤務
対象年次・学期	4年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床実習 B			担当教員	旦当教員 元木 純					
対象年次・学期	4年・後	<b></b> 単		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間		
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での 生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。									
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。									
テキスト・ 参考図書等	臨床実習	臨床実習教育の手引き 第5版								
	評価プ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	<u> </u>	0	π <b>=</b> → −	力羽状送せる知		水丰土南			
評価基準	小テス	<u> </u>	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。						
	提出物		25	_,						
	その他		75							
履修上の 留意事項	ビリテ-	ーション	ノについて、経験	期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハ 験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じ え方が出来るようになってください。						
	回		履修主題	履修内容						
履修主題・ 履修内容	1		1-45 回】 ā床実習		通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション 設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または 問リハビリテーション場面における見学、体験を通して 理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステム 強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを 握し、理学療法の役割を確認する。					

授業科目	臨床実習 B	担当 教員	有本邦洋		道外医療施設にて理学療法士と
1XX17 LI		実務経験	有:	無:	して 6 年勤務
対象年次・学期	4年・後期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			